

校舎配置ごとの特徴比較

		既存	B (校庭が東側配置の場合)	D (校庭が西側配置の場合)
		<p>延床面積：約7,000㎡ 校庭面積：約4,900㎡</p>	<p>延床面積：約8,310㎡ 校庭面積：約4,910㎡ 多目的広場面積：約800㎡</p>	<p>延床面積：約8,130㎡ 校庭面積：約4,730㎡ 多目的広場面積：約830㎡</p>
		<p>▲ 正門位置</p> <p>△ 通用門位置</p> <p>▲ 車両出入口口定位置</p> <p>■ 校庭範囲</p> <p>-2.9m 高低差</p> <p>▲ 昇降口位置</p>	<p>▲ 正門位置</p> <p>△ 通用門位置</p> <p>▲ 車両出入口口定位置</p> <p>■ 校庭範囲</p> <p>-2.9m 高低差</p> <p>▲ 昇降口位置</p>	<p>▲ 正門位置</p> <p>△ 通用門位置</p> <p>▲ 車両出入口口定位置</p> <p>■ 校庭範囲</p> <p>-2.9m 高低差</p> <p>▲ 昇降口位置</p>
比較項目		特徴		特徴
1 校舎環境	教室配置	I, II, III	・普通教室は各階で学年毎にまとめている ・特別教室は、2～4階に分散	・普通教室は各階で学年毎にまとめている ・特別教室は、2～4階に分散
	窓先の環境、日照、採光	I, IV, V	・普通教室は東側(校庭側)採光・日照 ・特別教室は南側採光・日照	・普通教室は西側(校庭側)採光・日照 ・特別教室は南側、北側採光・日照
	通風	I, IV, V	・吹抜、共用部等の開口により普通教室は通風を確保	・吹抜、共用部等の開口により普通教室は通風を確保
	居住性	I, III, V	・普通教室は東側(校庭)に面する ・校庭全体に目が届く職員室・校長室	・普通教室は西側(校庭)に面する ・校庭全体に目が届く職員室・校長室
	幹線道路側からの影響	I, IV, V	・現状より一部特別教室等が影響を受けやすい (早稲田通りまで約8mの離隔あり)	・現状より一部特別教室等が影響を受けやすい (2～4階は、早稲田通りまで約10m～20mの離隔あり)
	災害時の対応	V, VII	・緊急車両は早稲田通り及び北側道路から校庭を出入り ・体育館と校庭が同レベルにあり、アクセスしやすい	・緊急車両は早稲田通り及び北側道路から校庭を出入り ・体育館と校庭が同レベルにあり、アクセスしやすい
	正門の位置	V	・現状とほぼ同じ	・現状とほぼ同じ
	管理諸室	III, V	・校長室・職員室が校庭を見渡せる位置 ・保健室は校庭に面する位置	・校長室・職員室が校庭を見渡せる位置 ・保健室は校庭に面する位置
	セキュリティ	V	・来客や学校開放利用者は来客用玄関から主事室の前を通って入校	・来客や学校開放利用者は来客用玄関から主事室の前を通って入校
	昇降口・階段	III, V	・階段は吹抜を中心にバランスよく配置 ・昇降口は多目的広場に面し、正面にラーニングセンターがある	・階段は吹抜を中心にバランスよく配置 ・昇降口は多目的広場に面する
開放会議室	VI	・1階に独立して配置	・1階に独立して配置	
ラーニングセンター	I, V	・1階中央の吹抜に面して職員室に近い配置	・2階テラスに面して配置しテラスとつながりを持たせる	
2 校庭環境	校庭配置、形状、広さ	I, VII	・既存と同等の広さの校庭及び多目的広場 (校庭：約4,910㎡、多目的広場：約800㎡)	・既存とほぼ同等の広さの校庭及び多目的広場 (校庭：約4,730㎡、多目的広場：約830㎡)
	多目的広場	V, VII	・校庭の補完的な活用や災害時の活用	・校庭の補完的な活用や災害時の活用 ・駐車スペースを設け、歩車分離を確保
	日照	I, IV	・午後に校庭の一部に日影が生じる	・午前中に校庭の一部に日影が生じる
	アクセス・動線	III, IV	・生徒は北門より校庭を眺めて登下校 ・車両は西側の地下に駐車し歩車分離を確保 ・学校開放等来客は西側及び北側から来校	・生徒は北門より校庭を眺めて登下校 ・車両は北側から出入りし歩車分離を確保(給食車両は南側) ・学校開放等来客は北側から来校
	既存樹木の保存	IV, VI	・北側、西側は樹木伐採の可能性あり	・既存樹木は保存可能(南側は一部伐採予定)
高射砲台跡地の活用	IV, VI	・高射砲台跡地は保存可能 ・校庭と一体的利用が可能	・高射砲台跡地は保存可能 ・体育館及び高射砲台前広場と一体的利用が可能	
3 周辺環境	日影	IV	・周辺街区に終日日影は発生しない	・周辺街区に終日日影は発生しない
	校庭の音・砂ぼこり	IV	・北側街区の一部、東側街区に影響あり (比較的既存の状況に近い)	・北側街区、西側街区に影響あり (既存の状況と変わる)
4 工事計画	工事中の既存施設利用	I, III	・既存校舎のうち普通教室・管理諸室等は利用できる ・既存の特別教室・体育館・プールは利用できない	・既存の校舎・体育館とも利用できる ・既存のプールは利用できない
	仮設校舎・仮設体育館	I, III	・工事中は仮設校舎(特別教室のみ) ・仮設体育館が必要となる ※仮設体育館は約450㎡(既存アリーナの2/3程度)	・仮設校舎・仮設体育館は不要となる ・プールのみ他施設利用
	工事中の校庭利用	I, III	・校庭を一部利用できる(約700㎡)	・校庭を利用できない
工事期間		約4年3ヶ月		約3年4ヶ月
解体・仮設・改築に係るコスト		約46億円		約40億円

※各特徴の主な違いを赤字で記載しています。

※工事期間、コストについては、あくまでも現段階の想定であり、実際には前後する可能性があります。